すみよし

２０１５　クリスマス号　第１９７号

聖　句

どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。

何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、

求めているものを神に打ち明けなさい。

そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、

あなたがたの心と考えとを

キリスト・イエスによって守るでしょう。

「フィリピの信徒への手紙」

第４章　６～７節

選：パウロ

A.S.

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

《クリスマスって？》

ブラッドリー神父

皆さん、私たちは毎年クリスマスを祝っていますが、その言葉や由来のことご存知でしょうか？ある説明によるとクリスマス（降誕祭）はラテン語の Christus と Missus と言う二つの言葉の結合です。それは、“遣わされた”という意味です。キリストが神からこの世に遣わされたことをクリスマスと言います。クリスマスという言葉はキリストのミサ（キリストの祭）を意味しているとも言われています。

私は、クリスマスと異教の習慣について読んだことを皆さんと分かち合いたいと思います。ミトラ教の信者は太陽の復帰を画する日としての冬至の祭りを「太陽の誕生日」と見なされ、12 月 25 日広く祝いました。この異教徒の習慣がやがてイエス・キリストの誕生に結び付けられました。キリスト者は霊的な意味の「真の太陽」はキリストであることを伝統的に守られていたと考えられます。

もう一つは、古代ローマの農業神との関係です。当時の人は農業神の祭りを 12 月１７日から 7 日間「収穫祭」として祝いました。陽気に歌ったり、踊ったり、子供にプレゼントを与えたりして収穫の喜びを分かち合いました。季節的にこの祭りがキリストの誕生日と同じであるためにクリスマスのお祝いの中に取り入れたと考えられます。

降誕祭は異教の影響を受けているからクリスマスを避ける人がいるかもしれません。しかし、宗教や習慣の違いより考えないといけないのは、キリストが我々を救うためにこの世にお生まれになったことではないかと思います。その意味でクリスマスは異教の祭りより深い意義を表す大きなお祝いです。

MERRY CHRISTMAS

目次

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目　次

☆	聖句	A.S.	・・・	1
☆	巻頭言	ブラッドリー神父	・・・	2
☆	目次		・・・	3
☆	待降節黙想会	指導司祭　傘木澄男神父	・・・	4-5
☆	ふっこうのかけ橋プロジェクト		・・・	6-7
☆	敬老のお祝いと病者の塗油		・・・	8-9
☆	特集「新生計画 20 周年振り返り」		・・・	10-23
☆	セニョール・デ・ロス・ミラグロス		・・・	24
☆	追悼祈念ミサ		・・・	25
☆	住吉教会バザー		・・・	26-27
☆	七五三の祝福		・・・	28
☆	図書コーナー	J.Y.	・・・	29
☆	典礼チームからお知らせ		・・・	30
☆	教会日誌・(信徒動静)		・・・	31
☆	後記		・・・	32

題　字　J.Y.
表紙画　M.K.

「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にフルカラーで掲載されています。

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《　待降節黙想会　》

指導司祭　　傘木　澄男　神父

11月29日待降節第一主日に黙想会が行われた。テーマは「いつくしみの特別聖年」で指導は傘木師。ミサ後一時間の講話があり、その後ゆるしの秘跡があった。講話は教皇様の大聖年公布の大勅書の解説で、以下はその講話の要約である。

第一に、教皇様は特別聖年の目的を「父なる神のいつくしみを私達が日々の生活の中で実際に生き生きと体験するため」として示され、教会が世に神のいつくしみを告げる必要性は今日極めて緊急なものであり、教会は確信をもってこのいつくしみの御心を告げ知らせる時初めて真実で信憑性のある教会になれる、また教会はこのいつくしみを告げ知らせ、これを主の教えの中心として生きることによって神のいつくしみの御心の証人とならねばならないのだ、と強調される。

第二に、神のいつくしみについて詳細に解説されて、「これこそが、そしてこれだけが、聖書に明らかに啓示されている神のお心である」と強調しながら、次のように述べていかれる。

① 「いつくしみは神固有のもので、神の全能は何よりもこのいつくしみにおいて明らかに示されている。いつくしみは弱さの薇(いばら)などではなく反対に神の全能の表れである。」
② 「神のいつくしみは無限であるだけではなく、永遠のもの、終わることのないものである。」
③ また「イエスのお顔を見る時私達は三位一体の愛を掴むことができる。」「神は愛である、と聖書が言うこの神の愛は、イエスのご生涯においてはっきりと見えるものとなった。」
③ 「イエスは神のいつくしみについて多くの譬え(たとえ)を語られたが、それらはいつくしみこそ御父の御業、御父の真の子か否か見分ける基準であり、いつくしみこそ私たちの最大の使命であること、を教えている。」そして
④ 結びとして教皇様は、「だからこそ、いつくしみは教会の命を支える柱であり、教会の司牧活動と宣教活動は全ていつくしみに包まれていなければならない」と強調される。ここで教皇様はこう明言される。「教会は長らく口では神の愛、憐み、いつくしみと言いながら、肝心ないつくしみの道を示すこと、それを生きることを忘れていたようだ。真理や正義を片寄って重視し要求するあまり、このいつくしみというより高い目標を忘れていた。その結果教会には、ゆるしの体験が減り薄れてしまっていた。今こそ改めてゆるしへ、いつくしみへと立ち返らねばならず、立ち返りつつある。これこそ新しい命を甦らせる力であり、希望を与える力だ。」

第三に、ここで講師は私見として次のように付け加えられた。「教会は今日神のいつくしみをこれ程強調して教える理由は何かと考えると、それは、教会には今まで長い間神様について根本的な誤解が、即ちいつくしみと愛と憐みそのものである神の御心を，余りに狭く小さく捉える傾向があり、そのために神のいつくしみにどこ迄も信頼して、信仰の喜びを精一杯抱いて生きて行くことができず、反対に神の正義や裁きを恐れて、罪を避け掟を守って生きなければならないという考えの方に傾いて、その結果信仰の喜び、信仰への熱心がだんだん薄れて、今日の教会離れや福音宣教の低調さとなって来たという、この事にあるのではないか、と感ずるのだ。だから私達は、今こそ聖書が教えている神の真の御心はどういうものか、それは無限のいつくしみそのもの、それ以外の何物でもないことを、真に知って固くこれを確信しなければならない。教皇様がいつくしみの大聖年を開いて私達に教え悟らせようとなさるのは、まさにこのことではないだろ

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

うか。」そして続けて講師は、「従来教会では、教皇様が勅書の中でも指摘しておられるように、神のご慈愛のことを信者が安易に考えてしまうのを恐れて、兎角(とかく)神のいつくしみよりも真理と正義を重視し、神の掟や悔い改めや償いの大切さを強調して、その結果神を、いつくしみ深さと共に厳しさも持つ御方のように考え教えることが多かったようだ。だが実は神は、私達の想像も及ばない程寛大で鷹揚で、愛といつくしみに満ち満ちたお方であることを確信して、私達は徹底して安心と平安と信頼をもっていつも信仰の喜びを抱いて生きて行かねばならない」と結ばれた。

第四に、大聖年中に具体的に考え心掛けて行くべき事柄を列挙して、教皇様は次のように述べられる。

① 聖年のモットーの「御父のようにいつくしみ深い者となる」ことに重点を置いて、「あなた方の父がいつくしみ深いようにあなた方もいつくしみ深い者となりなさい」という御言葉を生き方の中心とし、それを自分の生活のスタイルとする、こうしてキリスト者として「いつくしみの証し人」となること。

② 自分の周りで自分とは全く違った生活を送っている全ての人に心を開くようにすること。外国からの移住者、生活苦に陥っている人々、周りから忘れられ声をあげる事も出来ないでいる人たち等、出来るだけそのような人達に目を開き心を向けるようにする。そして大聖年中、身体的な慈善の業と精神的な慈善の業にキリスト者は特別に心掛けること。

③ 次に聖年中の四旬節を「神のいつくしみを祝い実践する為の集中期間」として特別に深く味わいながら過ごす事。そのために聖書を熱心に黙想し、真の意味での断食、即ち愛の業を行う事、に心掛ける事。

④ 更に聖年の間の特別なしるし・業として巡礼が勧められている。自分の置かれた境遇で出来る範囲でこの意味深い薇となる巡礼を試みる事は、非常に良い犠牲と祈りの業で、大きな実りを与えてくれるであろう、と言われる。

第五に、教皇様は大聖年中の特別の行事として次の事を企画或いは提案しておられる。先ず、

① 「主に捧げる２４時間」。四旬節第四主日の前の金曜日と土曜日に、これが各教区で奨励され、この機会に赦しの秘跡を受けて、神のいつくしみの偉大さに触れて欲しいと望んでおられる。

② 聖年の四旬節の間に「いつくしみの宣教者」の派遣が企画されていること。これは、どんなに大きな深刻な罪びとでも例外なく赦され、こうして神のいつくしみの御心が良く証しされるように、との願いからである。

③ 第三に聖年には「免償」が与えられる。いつくしみにより罪は赦されても罪の結果(傷痕)は残るが、免償はそこから解放してくれる有難い恵みである。聖年の間与えられる免償を十分受けることが勧められる。

講話は、教皇様の呼び掛けに応えて、私達もこれからは、

① 神様の限りないいつくしみに心からの信頼と安心と喜びをもって生きて行こう。

② 「御父のいつくしみ深いようにいつくしみ深い者となりなさい」とのイエス様のお招きを真剣に受け止めて、他者に対して何よりもいつくしみの心を前面に出して接して行くよう努め、こうしてキリスト者として真の証人となって行こう。

③ 全ての人が，全ての人、全てのことに、いつくしみの心で当たって行く時、初めて世界の真の平和が実現するのだということを思い、そのために祈って行こう。

との呼び掛けで、終了した。　（要約）

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

《ふっこうのかけ橋プロジェクト》

今年で４回目を迎えた「ふっこうのかけ橋プロジェクト」は、8月6日（木）～10日（月）の間、福島の野田町教会、松木町教会のお母様方と子供たち19名が神戸に来られ、楽しい時間を過ごされました。昨年は想定外の台風襲来で、兎和野高原キャンプが中止になるなど残念な思いが残りましたが、今年は晴天に恵まれ、神戸と福島の子供たちが自然の中で交流を深めることができました。「ふっこうのかけ橋プロジェクト」への募金やバンダナのお買い上げ、期間中のお手伝いなど、皆様にはご協力いただき本当に有難うございました。

１日目

・新神戸駅到着後、夢風船（新神戸ロープウェイ）に乗り布引ハーブ園で昼食。

・宿泊先のたかとり教会で開会式。夕食後は皆で仲良く銭湯へ♨

少し緊張気味？の開会式

2 日目

・ 神戸地区と福島の子供たち混合チームが 7 班に分かれ「三木山森林公園」へ。山あり川ありの広い敷地内を、ヒント探しやゲームをしながら、元気いっぱい駆け巡りました。皆で協力しないと解けない課題や隠された文字のヒント探し・・・。どのグループもあっと言う間に仲良くなりました♪♪

１日の終わりに松浦神父からメッセージ

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

3 日目

・アジュール舞子で海水浴やビーチバレーを楽しみました。

・午後は神戸中央教会の「神戸地区平和旬間行事」にお母様方とともに参加。
平和祈願ミサでは、皆で作った折り鶴をお捧げしました。ミサ後は「ふれあい夏祭り」に参加しました。

4 日目はたかとり教会主日ミサにあずかった後自由行動の時間をもち、8 月 10 日最終日は神戸中央教会で閉会式。
最後の昼食の「粉もんパーティー」で別れを惜しみ、午後の新幹線で福島へ向け全員元気にお帰りになりました。来年の再会を楽しみにしています。

福島のお母様からご挨拶

閉会式　首にはお揃いのバンダナ！！

目次

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《　敬老の日の祝福と病者の塗油　》

９月２０日
司式：ブラッドリー神父

年間第 25 主日のミサの中で 敬老の日の祝福と病者の塗油の秘跡が行われました。
説教で「病者の塗油」についてスライドを使ってのお話があり、これから塗油の秘跡が行われるにあたって、みなその意味を深く知ることができました。
説教の後、65 歳以上の方、ご闘病中やご希望される方が、塗油の秘跡にあずかられました。 ミサの中での秘跡、教会共同体で共に皆が祈る中での秘跡の意味を思いながら、受けられる方も見守りながら祈る会衆も一つになった恵みの時となりました。

病者の塗油は私たちが傷ついたり病気の時に
神様の力と助けを得るためのものです。
病の恐怖、苦しみなどと戦う力、また病から
回復するお恵みが与えられます。

目次

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

いのちの与え主である主よ、あなたは今日にいたるまでの日々を私たちに与えてくださいました。
私たちはあなたに賛美と感謝をささげます。
私たちはかつてまだ若かった頃、あなたを忘れ、あなたに背いてあやまちを犯したことも　決して少なくありませんでした。しかしあなたは私たちをいつもゆるしてくださり、深いいつくしみをもって、今日の日を迎えるまで私たちを導いてくださいました。
どうか私たちもあなたの愛にならって、他の人々、特に若い人たちが同じような過ちをおかしても、それをゆるすことができますように。　また私たちが他人をゆるすことによって、あなたの愛をこの地上にあかしすることができますように

ミサ後はお茶とお菓子で歓談、楽しいひと時でした。

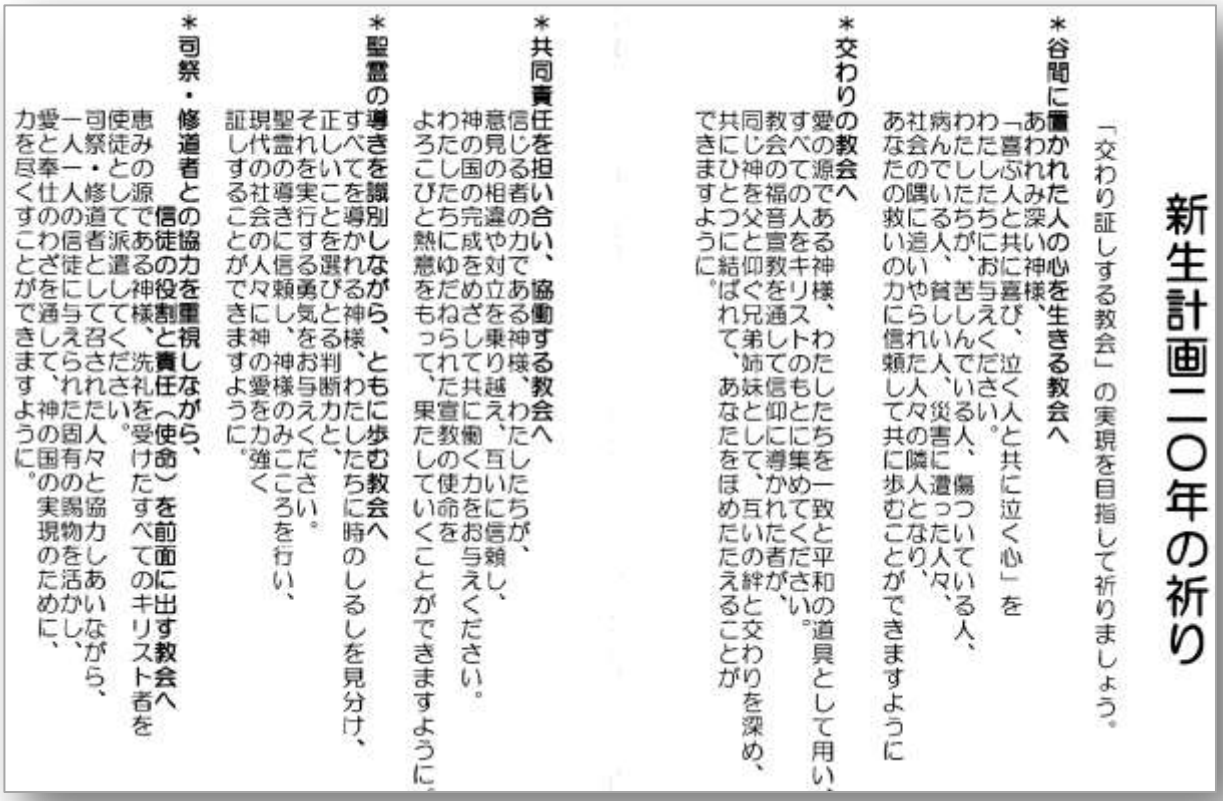
copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

《新生計画 20 周年振り返り》

2015 年 1 月 11 日の「新生 20 年開年ミサ」にはじまり、この一年は「新生計画」の 20 年を振り返る年となり、各教会にも「新生計画 20 年の祈り」や振り返りを促す「新生計画 20 周年振り返りシート」が配られました、

住吉教会では、2014 年の「カトリック時報」10 月号に発表された前田万葉大司教の「新生計画 20 周年のメッセージ」をブラッドリー神父が 1 月 18 日のミサの中でわかりやすく説明してくださいました。未曾有の災害を経験し、その経験を活かしよりよい教会をめざしてきた 20 年間、20 年という節目に謙虚にふりかえり、またこれからもよりよくなるためにたゆまぬ努力を続けて行こうという力強いメッセージでした。
また「すみよし」誌 2015 年イースター号には、「新生計画 20 年の祈り」や振り返りシートの紹介、震災からの 20 年を年表形式で記載、という形で取り組んでまいりました。
そして、今回の「すみよし」クリスマス号に、住吉教会のメンバー（個人・チーム）の「新生計画 20 周年の振り返り」の記事を記載いたします。



新生計画二〇年の祈り

「交わり証しする教会」の実現を目指して祈りましょう。

＊谷間に置かれた人の心を生きる教会へ

あわれみ深い神様、
喜ぶと共に泣く人と共に泣く心」を
ーいただいたお与えください。
わたしたちに、泣く
わたしたちが、苦しんでいる人、傷ついている人、
病んでいる人、貧困に遭った人々、
社会の隅に追いやられた人災害に隣人となり、
あなたの救いを信じ頼し、
共に歩むことができますように

＊交わりの教会へ

愛の源泉である神様、
すべてのもとわたしたちを一致と平和の道具として用い、
教会の福音宣教をキリストの信仰に集めてください。
同じ神を父と兄弟姉妹として、互いの絆と交わりを深め、
共にひとつに結ばれて、あなたをほめたたえることができますように。

＊共同責任を担い合い、協働する教会へ

信じる者の力で
意味の相違を越え、
神の見守る神様
たの国の完成を対立を乗り越え、
し共に働くお互いに信頼し、
国を宣教の使命を
完成をお与えください。
ゆだねられて、
ねらい、
だ宣教の使命を
果たしていくことができますように。

＊聖霊の導きを識別しながら、ともに歩む教会へ

正しい導きを識別しながら、
それを行う勇気を選び、
聖霊の導きを識別しながら、
現代の社会の人々に信頼し、
代の社会の人々に信頼し、
すべての人々に神様の愛を
すのの人々に神様の愛を
る社会との人々に神様の愛を
こ会とのが人々に神様の愛を
証し
証し

＊司祭・修道者と信徒の協力を重視しながら、役割と責任（使命）を前面に出す教会へ

司祭・修道者と信徒の協力を重視しながら、役割と責任（使命）を前面に出す教会へ
一人一人の使命を尊重し、
人修道者と信徒との協力
修道者と信徒との協力
道者派遣源泉
徒と遣源泉
にしてあるの
ててあるの
召ぜ神様、洗礼を受けたすべてのキリスト者を
さだ様、洗礼を受けたすべてのキリスト者を
れさい。
れたすべてのキリスト者を
た人々と協力しあいながら、
人々と協力しあいながら、
の賜物を活かし、
の賜物を活かし、
の実現のために、
の実現のために、
の実現のために

《新生計画20周年をふりかえる～20年後の教会は？～》

N.K.

（前田大司教のメッセージ）

昨年9月に着任された前田大司教は、今年1月に新生計画20周年のメッセージを発表され、次の3つにチャレンジするよう呼びかけられました。

① 震災20周年を機に、もう一度教区新生計画をしっかり検証すること。

② キリストの十字架と復活（過ぎ越しの神秘）に生きる者・教会として、日々古い自分に死んで新しい自分に復活するという、悔い改め続ける教区を目指す。

③ 福音宣教・司牧活動をバランスよく進めながら、勇気をもって新しく進めるべきところは進め、見直して再活動すべきところは見直す。

（新生計画の基本方針～５つの教会像～）

新生計画では次の５つの基本方針があげられています。

① 谷間に置かれた人の心を生きる教会へ

② 交わりの教会へ

③ 共同責任を担い合い、協働する教会へ

④ 聖霊の導きを識別しながら、ともに歩む教会へ

⑤ 司祭・修道者の協力を重視しながら、信徒の役割と責任（使命）を前面に出す教会へ

（住吉教会の取り組みをふりかえる）

以上の基本方針に対し、住吉教会はどう取り組んできたでしょうか。

震災直後、住吉は周辺のがれき撤去よりも、教会内の片づけを先行したとして、地元の方から「教会さんはええなあ、自分とこだけ先に片づけができて・・」と言われ（たそうです）、地域交流の乏しい教会の見本として、事ある毎に引き合いに出される羽目になりました。しかし当時、住吉の信者の多くは被災し、避難先に移っておられたため、現場に居合わせた人は殆どいなかったのが実情のようです。残った信徒は教会を拠点として、それぞれ活動を繰り広げました。

ご自身も被災しながら、生藤神父様のお手伝いと、ひっきりなしにかかってくる電話応対をされたK.H.さん（当時信徒会長、故人）、司祭館が全壊したため、自宅を生藤神父様の避難先として提供されたT.S.さん、信徒の安否確認に奔走してくれたH.T.さんはじめ青年の皆さん、新しく赴任された諏訪神父様を助けて、ふれあい広場を開設して住吉仮設の方々との交流をはかり、集会所の開設のため行政と交渉を重ねて下さったY.Y.さん、小教区評議会の組織変更と運営に尽くされたT.N.さんをはじめとする多くの方々の努力は、まさに新生の描く教会像を実現したものといえるでしょう。もちろん、これらのことは六甲・三田両教会と、大阪北地区ABブロックの箕面、池

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

田、日生中央、豊中、三国（現在なし）、吹田、千里NT、茨木の各姉妹教会の支援と協力がなければなしえなかったことを忘れてはなりません。
震災直後の混乱が一段落した以後は、新生計画についての分かち合いを重ねるとともに、これから始まる教会建設に対し、教会のあり方についてパネル・ディスカッション（口論になることも幾度かありましたが）を開きました。また、地元行事への参加、「だんじり」への協力、清掃奉仕にも加わるようになりました。
　その後も、神戸地区評議会のメンバーとして社会活動、養成、広報等の面で積極的に参加し貢献しています。
　震災の翌年、神戸地区評議会に３つの委員会（共同司牧,養成、新生）ができ、私は共同司牧に入りました。明石、洲本、下山手（当時）、兵庫、北須磨、鈴蘭台、灘（当時）の人たちと赤波江神父様（当時兵庫主任）のご指導のもと、「共同司牧とは何か？」から始め、手探りで勉強会を重ねました。
　新生計画から20年たちました。これから20年後に日本の教会は、大阪教区は、そして住吉教会はどのような変貌を遂げるのでしょうか。

（カトリック新聞の投書から）
　私は以前からカトリック新聞に掲載された投書のうち、教会の現状について述べられた意見をスクラップにしてきました。いずれも現状を憂うる、やや悲観的な内容となっています。私は、これらを教会の現状と将来に対する警鐘と受け止め、共感をもって読みました。
　そのうちのいくつかをご紹介します。大分以前のものもありますが、内容は今でも十分に通じるものです。

１、信徒使徒職の意識化と組織化　「信仰年」に取り組むべき優先課題

（前鹿児島教区司教　糸永真一司教　2012年8月26日号）

・・・公会議開幕から50年、果たして信徒中心の教会は実現したかと問えば、答えは否であろう。早い話が「信徒使徒職」（注1）という言葉ばかりか、その実体までが今の教会から消えてしまったのではないか。（中略）独りで使徒職に励む信徒はいる。司教・司祭が主催する活動に協力する信徒も少なくない。だが、家庭や地域社会、そしておのおのの職場の福音化のために組織された信徒使徒職が見えない。（中略）それゆえ、もうすぐ始まる信仰年（注2）には、信徒使徒職の意識化と組織化が優先的な課題でなければなるまい。
（注1）信徒使徒職はカトリック・アクションとも呼ばれ、1950～60年台が盛んでした。カトリック青年労働者連盟（JOC）、カトリック学生連盟等がありますが、現在では殆ど活動していないか消滅しています。大阪学生連盟から外川直見、後藤 進2名の司祭を輩出し、シスターになった人も数名います。
(注2)前教皇ベネディクト16世によって、バチカン公会議から50周年に当たる2012年10月11日から2013年10月10日までの1年間を信仰年とすることが定められました。

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.
目次

２、再び宣教に踏み出す　　（来住英俊神父、2008年1月6日号）

私は小教区を訪問すると、信者名簿上の数と、実際に主日のミサに参加する人数を尋ねてみることにしている。その比率はだいたい、三分の一と四分の一の間なのだが、だんだん四分の一に近づいているようである。

教会が直面している問題としてよく語られているのは、信者の高齢化、司祭の減少、教会財政のひっ迫などである。しかし、その根本にあるのは、信者が減っているという問題ではあるまいか。（中略）1984 年に日本司教団は「日本の教会の基本方針と優先課題」を出した。これによると基本方針は二つである。端的に言えば、「信者が増えるように努力すること」、そして「社会を良くするために働くこと」である。あれから20年たってあらためて考えてみると、「社会をよくするために働こう」という話は今も活発だが、「頑張って信者が増えるようにしよう」という話はほとんど聞かなくなったように思う。

その理由は二つあると考える。一つは、「”増やす”のではなく、”増える”であるべきだ」という考え方である。つまり、「教会が良い共同体になるように努力していれば、信者はおのずと増えるはずだ」と考える。もう一つは、多くの人（神父も含めて）が、直接的な福音宣教は自分の得意分野ではないと感じていることである。

（参考）信徒数推移	1994年末	大阪教区	53,807人	住吉	870人
	2014年末		51,206		801

３、教会の今後を問い直す時期　　（千葉・西千葉教会　M.S.　2014年7月6日号）

今、日本の教会は残念ながら司祭や信徒の高齢化、減少でいろいろなことが縮小傾向にある気がします。私が所属する都賀集会所も、5月をもって主日のミサが終了しました。（中略）現在は 20 年前の創立当時の私たちの願い、「地域への宣教の拠点」どころか、ここに集う信徒の情熱もいつしか消え、広がりとは反対に小さい守りの集会所になってしまったことを悔やむばかりです。今一度、以前の広がりのある集会所に立ち戻りたい。私たちは今こそ、司祭や信徒の高齢化を言い訳にするのではなく、何が大切で何を守り、何を変えていく必要があるのかを問いなおす時期に来ているのではないでしょうか。

４、司祭・修道者の老後支える　　（S.H.　2010年9月26日号）

これまで教会を支えて下さった司祭や修道者の老後をどのように支えていくかのは、私たち信徒にとって大きな課題です。私は教区の司祭・修道者の老後を支えていきたいと、大阪教区の有志と共に「稔（みの）りの会」を立ち上げました。（中略）

司祭や修道者が老年期をどのように過ごしていきたいのかという希望は、人それぞれ違います。（中略）

① 最期まで司祭・修道者として働き、司祭館や修道院で過ごしたい。
② 体力・気力の限界が来た時には、引退司祭や修道者の「家」で過ごしたい。
③ カトリック系の介護施設または、一般の介護施設で過ごしたい。
④ がんにかかり、疼痛緩和のためにホスピスなどで最期を過ごす。（中略）

司祭・修道者がいつまでもお元気で長生きし、使命を果たすことができるように、今こそお世話になった司祭・修道者に恩返しをいたしましょう。　　以上

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

《新生計画20周年振り返り》

－小教区評議会の運営方針及び主要課題－
（評議会議長を２回拝命して）

T.K.

１、1995年１月の大震災で大阪教区神戸地区11教会中、3教会が被災した。
（・鷹取教会（たかとり教会）、・中山手教会（神戸中央教会）、・住吉教会）
① 教区並びに各教会は自己の復旧と共に地域の救援・支援活動に従事した。
② 一方、被災3教会の聖堂の再建は、教区方針として、地域の復興を優先し、ある程度落着いた時点で実施されることになった。被災3教会共約10年後。

２、1999年４月～2001年３月　評議会議長就任
①この時期は住吉小教区としては教会（聖堂、司祭館等）、幼稚園の再建の将来的な道筋をつける事が評議会の重要課題の一つとなっていた。
②教区の新生方針に従った小教区運営を心がけると共に2000年12月24日付で実際の「新聖堂建設承認申請」を行った。その後池長大司教の承認が下り2004年以降の聖堂再建計画に繋がった。基本的に幼稚園舎の建設を先行させ、その後聖堂を再建する方針が決定された。2006年６月新聖堂献堂。

3、2009年４月～2011年３月　評議会議長就任
① 2009年４月より諸事情により10年ぶりに再度評議会議長に就任した。
② 2010年１月17日（日）「大震災15周年記念追悼ウォーク」の実施。
松浦司教を迎え、住吉教会で追悼ミサ後、100名超の参加を得て神戸中央教会まで往時を偲び歩いた。たかとり教会から池長大司教と共にもう１グループが参加した。神戸中央教会到着後社会活動グループの炊き出しを受け、参加者全員で「合同追悼ミサ」で祈りを捧げた。

４、2011年４月～2013年３月　評議会顧問就任
① 2011年４月～2012年３月　K.T.　議長就任
② 2012年４月～2013年３月　A.T.　議長就任

５、2012年～2015年・年度テーマ「殉教者の霊性を生きる」－信仰刷新の年―
教区信仰年を迎えるに当たり、住吉小教区では守護聖人である「聖パウロ三木」を中心とする「日本二十六聖人」並びに「信徒発見150年」につながる複数年の小教区信仰テーマを設定し、この精神に基づいた「教会信仰共同体づくり」の運営に注力した。

以上

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.
目次

《新生計画 20 周年の振り返り》

―地域とのまじわり―

アントニオ・ジェラルド・A.T.

1995 年 1 月 17 日の阪神淡路大震災からの「再建計画」は、単に震災以前の状態に復旧することではない。キリストの十字架と復活（過ぎ越しの神秘）の新しい生命に与る「新生」への計画である、という基本方針に基づいて新生計画実施要領が作成され、1998 年 10 月に『「新生」の明日を求めて』が刊行されました。
新生計画で大阪教区が目指そうとする教会像（5 項目）の中の一つ「交わりの教会」（特に地域との交わり）に絞って振り返ります。

私は地震で家が全壊し 1 年ほど大阪に住んでいましたので、当時教会のことはミサに与るだけで何も出来ませんでしたが、「すみよし」を読み返してみますと
①大阪北地区 8 教会と六甲教会、三田教会の協力を得て六甲砂防事務所での炊き出し、
②住吉公園にあった 60 歳以上の方々対象の仮設住宅での「ふれあい広場」（仮設住宅高齢住民の方々とのお茶会や医療相談など）の運営などの支援活動、
③住之江地区協議会との交流など
様々な活動を通じて近隣の方たちと交わっていたことがわかります。
社会活動等の活動を除けば教会の外へ出掛けて行くことのなかった信徒が、地域社会との交わりを行うようになったことは画期的なことでした。震災の苦しみの中で、お互いが助け合いながら共に生きる連帯感が地域社会との間に暖かい交流を生み出しました。
その後、周りの状況が落ち着いていくとともに住之江地区協議会の役員交代などもあり、それぞれが自分たちのことを優先し、いつの間にか地域社会との交わりも疎遠になってきました。
しかし、2012 年に住之江地区協議会会長交代を機にだんじり祭りへの支援（住吉神社への寄進ではない）を行い、これをきっかけに地域掲示板へのバザーのポスター掲示をしてもらえるようになりました。

震災直後とは違って落ち着いた世の中では地域との係わりは難しくなっていますが、今後はクリーン作戦（一斉清掃活動）など地域のイベントへの参加を考えても良いのではないかと思います。
また、教会としてもバザーの他に地域の方たちが気軽に入って来られるような「料理教室」や「手芸教室」、講演会などの企画を検討する時期になっているのではないでしょうか。

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.
目次

《新生計画 20 周年振り返り》

T.U.

1995 年 1 月 17 日の阪神・淡路大震災発生から六甲教会 H 様と共に自転車で安否確認のため、灘区大和町周辺と成徳小学校を訪ねたのが 1 月中のことで、すぐにふれあいバザール（必要物資の配布市）、大阪北地区 8 教会（現北摂ブロック）による支援、生藤神父様続いて諏訪神父（司教）様のご指導を受けながら住吉仮設住宅支援ボランティア、ふれあい喫茶と医療相談の展開、住吉教会では６時間３０分の評議会での話し合い、教区新生計画の発表、展開と目まぐるしく推移していきました。

次に、現・神戸地区評議会の担当として、より大きな視野での組織体制に触れていきたいと思います。

2000 年のミレニアムの頃、住吉教会 K 信徒会長がご就任時、ブロック・小教区の再編が議論され、後に神戸地区は西（明石垂水北須磨洲本）・中（たかとり鈴蘭台兵庫）・北（三田）・東の 4 ブロック制となり、住吉教会は 1999 年に誕生した神戸中央教会と共同宣教司牧となり、担当司祭・協力司祭による司牧チーム、そして同じ東ブロックの六甲教会とは協力宣教司牧の関係となり、現在に至ります。

2006 年、パウロ神父様・シリロ神父様の担当司祭時、「小教区評議会規約」が教区全体で改定され、「モデル評議会規約」に基づき、信徒会規約を廃止し、小教区評議会規約に統合され、池長大司教様の御承認をいただきました。ハード面では住吉教会新聖堂・教会建物が献堂式を迎え、ハードソフト共にほぼ現在の形になりました。

また現在は日本のカトリック教会全体が超高齢化の波を受け次世代への継承、大阪教区もさらなる組織再編が検討されています。（2015 年 10 月神戸地区評議会司祭コメント）神戸地区では「交わりと証しする教会」と国際化が日々進化しています。

少子高齢化により日本人が中心の教会は信徒が減少・高齢化し、教会行事の今までのような運営が困難となり、新たな活動の形が模索されています。

一方、例えばたかとり教会や神戸中央教会のように外国人信徒が過半数を占める小教区は活動が活発で、子供達や青年信徒も多く、信徒数も維持費も確保されています。NPO 法人との連携協力と財政面での課題はありますが・・・。教会行事を維持していくには、小教区を超え、共同宣教司牧、ブロック、地区、教区まで拡げて、神戸地区大会や教区国際協力の日のような大きな行事が運営されています。住吉教会は星の園幼稚園と連携協力し、教会学校では多くの子供たちが生き生きと活動しています。

住吉小教区の評議会組織では、典礼、宣教・司牧、養成、社会活動、国際、教会学校、財務、営繕、施設管理、広報チーム、ホームページ委員会の活動が展開されています。

神戸地区の他のブロック、小教区と協力し、次の組織再編に備えて、次世代に繋げる奉仕を続けて行きたいと思います。楽しい教会活動であることは、言うまでもありませんが。

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

《各チームの「新生計画20周年振り返り」》

財務チーム

１９９５年　　１９８５年の教会創立５０周年から新聖堂建設のために積み立てた約１億３千万円を新生計画基金として大阪教区に拠出。

２００１年　　教区の会計監査制度発足に伴い会計監事２名を選出、年２回教会内会計監査を実施（１０月に中間決算、４月に本決算）。

２００２年　　１月より　“教会建設に伴う什器備品購入資金積立”　始まる
２００６年３月迄に23,380,310円積み立て。

２００３年　　教区の会計監査制度が変わり神戸中央教会、三田教会、住吉教会の３教会で相互監査を行う。年２回

２００５年　　教区でパソコン会計導入。住吉教会は２０１２年度から導入。

２０１２年　　教区に第１期会計監査チーム発足。（２０１５年に第２期）

２０１３年　　教会施設維持管理費の積み立てを始める。（現在継続中）

大阪教区では１９９５年度より新しい会計システム（初めは１月～１２月、１９９７年より４月～翌年３月）を導入し１９９７年度より予算制度を採用していますが、住吉教会でもこれに従って会計業務を行っています。
財務チームは毎週日曜日の各種献金の集計と経費の支払いなど地味な事をしていますが、教会の運営になくてはならない仕事です。この２０年間に資金積立を２回行いましたが、皆様方の住吉教会に寄せる熱い思いを感じることが出来たことは大きなお恵みでした。また、相互監査をすることで他の教会へ行くことによって情報交換など交流することが出来たのも良かったと思います。
　今後のことを考えますと信徒の高齢化に伴い、教会活動の大きな財源である教会維持費の減少は避けられないことであり、次世代の方たちの負担を少しでも軽くするために、今のうちに維持費納入世帯を増やすことや効果的な出費の仕方などを真剣に考えなければならないと思います。

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.
目次

典礼チーム

教会のほとんどの方が被災した大震災の後、残った聖堂に集まってミサが捧げられたこと、そして旧聖堂が取り壊される前のミサでは皆が気持ちを一つにして神様に感謝して聖堂に別れを惜しみました。新聖堂ができるまで幼稚園の教室を使っての日曜日のミサの準備はどんなに大変だったことかと感謝あるのみです。

典礼チームは目標を
［年間を通してミサ典礼の充実をはかり共同体が一致して神への賛美と祈りを捧げることができるように心を配る］として司牧チームのレジオ・マリエと例会をともに持ち、具体的な仕事としては
☆ミサの準備（典礼当番表の作成、聖歌の選曲、オルガン奏楽、聖歌奉仕
聖書と典礼等の注文、大祝日のお花）
☆結婚式、葬儀の準備と片付けおよび聖歌奉仕
☆七五三、成人式等の祝福の案内と準備、等々があります。

大事な奉仕を途切れることなくなさってくださった方々のおかげで、今があると思います。そしてあとの方に伝えてゆかねばなりません。
20 年前には携帯電話もそれほど普及していませんでしたが、近年の IT の進歩は目が回るようです。数年前から主日ミサには毎週ミサスライドの作成をするようになりました。いろいろな方法を使って大切なことを学ぶことは大事なことと思います。
主任司祭がいらっしゃる小教区から共同宣教司牧になり、不安もありましたが多くの神父様とのお出会いに恵まれてきました。信徒は奉仕の内容が増えて戸惑うことも多いのですが昔を懐かしんでいては前に進みません。
みなさんが神様から頂いていらっしゃるタレントを捧げて、より充実した典礼を分かち合えるようにと願っています。　M.H.

社会活動チーム

・外の社会の中で谷間に生きる人達への関わりの情報を発信し、皆さんと共に少しずつ深めて行きたい。基本的に住吉教会は毎月第一土曜日に、小野浜公園での炊き出しをおこなっていて、ミサのお知らせの時にお手伝いくださる方を広く募集している。
・外国航路船員用毛糸の帽子編みを呼びかけ、協力していただいている。（それに伴い毛糸のご寄付も募っている）
・「住吉教会内のつながりは大切」ととらえ、今後もミサゴを継続させていくためにお茶を楽しんで和んでいただく場の提供と、お手伝いして下さる方が増えてミサゴの大切さを理解していただけるよう呼びかけて行きたい。

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.
目次

司牧チーム

私が司牧チームにかかわり出したのは、ここ２年弱ですので、20 年の振り返りはとてもできません。それまで“司牧”というとそれは神父様のお仕事、一般信徒は立ち入ってはいけないこと～のように思っていました。そしてその神父様をサポートするのが、レジオ・マリエの限られた方々と思っておりました。

レジオの方々が典礼の事とともに黙々とやってくださっていた司牧のお仕事は

１．　主日のミサ等に教会へ来られない方たちへ大祝日等の案内葉書を出す
２．　神父様とともに、病気の方や高齢者を訪問する
３．　家庭集会等を開き、地区活動を促進する
４．　墓地委員会(納骨堂委員会)に関すること　　等

レジオの方たちが高齢になり人数も増えない中（その後少し増えました)、少しでもお手伝いしようと４つの地区の代表者が集まりました。まず葉書書きから。それに伴い信徒名簿の整理、トレーの整理をしました。またお知らせを回す手段にメールを、ということになり昨年アンケートを取らせていただきました。全く不明の方を除き、一応皆様にご希望の方法で教会からの連絡は届くようになったことは、「すみよし被昇天号」のとおりです。

さて、お知らせなど教会からの一斉メールやファックスだとどうしても一方通行になりかえってお話しする機会が減る～というのは一般的な現代社会の問題でもありさびしいことですね。病気や高齢や様々な問題を抱えている方をできるだけくまなく把握すること。そして教会はそれにすべてこたえることはできないけれど、少しでも心の支えになれたら、と思います。これは、信徒、信徒以外にかかわらず、イエス様が私たちに命ぜられた“愛の教え”そのものでしょう。

今司牧チームは、各地区からの代表者２，３名とレジオの方々で始まったばかりです。チームの構成者をどのように引き継いでいくのか、これから“愛の実践”をどのように進めていったらよいのか等広く信徒皆様のご意見をお聞きしたく思っております。

R.K.

目次

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

営繕チーム

1995 年の大震災以後、諏訪神父様の下、チーム制が発足し、それまで婦人会・ヨゼフ会が担ってきた教会の維持・管理を引き継ぐことになりました。

震災で司祭館が崩壊しプレハブの司祭館になり、その備品の用意・整備、旧聖堂の修復と保守・管理が主な活動になりました。

2004 年に旧聖堂が取り壊され、2006 年 6 月に新聖堂・司祭館・集会室を含む建物が竣工するまで、主日のミサは幼稚園の園舎で行われ、毎回の準備（物の移動など）も営繕チームが中心となり、信徒全員が関わってきました。

新聖堂等主要建物の建築費用は、大阪教区が負担、什器・備品の準備・調達および費用負担は、住吉教会と決定され、営繕チームが中心に関わってきました。

現在、営繕チームの仕事は、非常に広範囲、多岐にわたっています。

1　聖堂の備品の保守・管理
2　備品の補充（トイレットペーパー・洗剤・電球・ゴミ袋　など）
3　水道・ガス・トイレなどの整備・補修
4　各種必要設備の設置（屋外ガス台・水道などの設置）
5　教会の清掃・保全などに関する日常体制（掃除当番表の作成・カーテンの洗濯・二階の寝具の整備など）
6　樹木・庭園の日常管理（植木の剪定・草ぬき・水やり・猫のフンの始末など）

営繕チームの今後

チーム制が発足した当時は、「全員がどこかのチームに」ということでしたが、今ではどこにも所属しておられない方も多いです。営繕チームの仕事内容をご存じでない方も多いかと思います。営繕チームの仕事は多岐にわたっているので、毎週のお掃除や夏場の水やり・草ぬき、また備品の購入など、皆様にお声かけをして、手伝っていただける方を一人でも増やし、住吉教会を「私たちの教会」として大切に守っていけたらいいと思います。

M.N.

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

教会学校チーム

☆現在の状況

子供約 35 名が登録。リーダーは 10 名。年間実施 20 回ほど。

第 1・3 土曜日　午後 2：00～4：30（冬季は 4：00）

第 5 土曜日は　子供のミサ（午後 2：00～3：00）

その他・7 月末には、お泊りキャンプ、バザーなどの手伝い、クリスマスには聖劇をして保護者の方々の前で発表している。

また、同じ東ブロックとして中央教会と「サムエルナイト」というお泊り会を行い、交流を続けている。

☆20 年のふりかえり。

震災後、住吉教会や幼稚園の存続を問われる時期がありましたが、両者が続いたおかげで、毎年 30 人前後の子供達が土曜学校に参加してくれています。

土曜学校のおやつも保護者の方々が交替で手作りして下さるなど、未信者の方々が多い中、これも地域の子供達や家庭に少しは小さな種がまかれているのではないか・・・と思っています。

巣立った子供達の一人が中高生会へ進み、自分の意志で「信者になりたい！」と受洗した時はこの活動を続けてこられてよかった・・・と。

また、20 年たって、小学生だった信者の子供達が大人になり、教会活動に少しずつ参加してくれるようになっていることも、神様に感謝しています。

これからも、卒業していく子供達がいつも神様がそばにいてくださることを忘れないでほしい・・・と願っています。

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

ホームページ委員会

ホームページ委員会が 2009 年 8 月に発足して以来、6 年になります。住吉教会の活動についてホームページを通して教会外の一般の方に広く知っていただくことにより「現代に開かれた教会」への一助になることを心掛けて来ました。また、信徒の方、教会から遠ざかっておられる信徒の方へホームページを通しての情報提供により「交わり証する教会」への助けとなることを目指して来ました。
パソコン、タブレット、スマートホンの普及によりインターネットを通して多数の方が住吉教会のホームページを利用されてきました。一方、信徒の方でインターネットをご覧になれない方もおられますのでホームページをご覧になれるよう出来る限りお手伝いさせていただきたいと思います。

ホームページ上でチャリティー活動のニュースやポスター掲示を通して「谷間に置かれた人の心を生きる教会」に微力を尽くしてきました。英語スペイン語ページにより住吉教会では少数派の外国人の方々への情報提供を行ってきました。今後とも、「谷間に置かれた人の心を生きる教会」にふさわしい内容を一層充実して掲載して行きたいと思います。

ホームページ制作にあたってホームページ委員会のみならず広く司祭、評議会、各チームのメンバーにご協力いただき、「交わりの教会」実践の一助になってきました。引き続き司祭、評議会、各チームの皆さまのご協力を得て、中身の豊かなホームページを作って行きたいと思います。
ホームページの他、住吉教会ミサの録音 CD、主な行事のビデオ、教皇フランシスコの講話の DVD もありますのでご利用ください。

S.K.

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.
目次

広報チーム

広報チームの「振り返り」で一番に思い浮かぶのが「すみよし」誌の発行です。地震直後の 1995 年の復活号も休刊することなく発行。教会・信徒の被災状況やその当時の想い、困難の中の信仰の強さを読むことができます。それからの号も、復興状況、新生の理念、チーム体制への移行状況、教会建物の再建への道のりなど、当時の様子が克明に記録され、今回の振り返りにあたって貴重な資料となりました。たいへんな時期にも、教会の記録媒体として「すみよし」誌を途切れさせることなく作成し続けた先輩方に感謝いたします。

現在の活動

1. 年 3 回の「すみよし」誌発行、電子版に提供、各教会関係各所に配布。
2. 神戸地区広報委員会「つながり」誌発行に参加。
3. 教会ホームページ委員会への参加。（教会行事の写真、動画、ニュースキャプション等などのコンテンツ提供）・教区ホームページへの連絡。
4. 図書購入、整理、貸出管理。
5. コピー機、印刷機の用紙等の消耗品の補充と管理。
6. 教会案内作成。・ポスター作成。・初めてクリスマスにいらっしゃった方へのしおり作成等。
7. 建物内と道路沿いの掲示板管理。・掲示物の作成と整理。
8. 教会行事の写真や動画の撮影。　・写真、CD、DVD の保管。

（震災後に発足した週報「風」は広報チームだったが、現在の月報作成は評議会が中心となって作成）

「開かれた教会への取り組み」として教会案内・バザーやクリスマスポスターなどの作製・掲示、セニョール・デ・ロス・ミラグロスのポスター掲示、など教会外部の方へのアピールをしておりますが、まだまだ足りない点が多いです。

震災当時は外国語の情報が少なく外国の方が十分に情報を得られないことが問題になり、たかとり教会ボランティア救援基地の中で、各国語の「FM わいわい」の FM 放送などが始まりました。現在、住吉教会ホームページの英語・スペイン語表記を見習って、紙ベースポスターのお知らせにも英語・スペイン語表記を心掛けるようにしています。

インターネットの急速な普及により、今ではインターネットを使わないことによる情報弱者という問題も社会に表れてきています。インターネットによる連絡・告知が増え情報発信者も受け取り手も便利になる中、紙ベースのお知らせを必要としている方への配慮も忘れてはならないと思います。

「福音」GOOD　NEWS・・“よい知らせが”、言葉で、手紙で、お知らせで、ポスターで、インターネットで、広く社会に伝わっていきますように。

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

《セニョール・デ・ロス・ミラグロス》

10 月 25 日、住吉教会でペルーのセニョール・デ・ロス・ミラグロス（奇跡の主）のお祝いがありました。住吉教会でのセニョール・デ・ロス・ミラグロスも今年で 24 年目を迎えます。

ラモス神父、傘木神父、ペンケレシ神父の司式による二か国語（スペイン語・日本語）ミサのあと、敷地内で聖行列が行われました。
ペルー料理のお昼ご飯のあと、歌や踊りが披露されました。
お天気にも恵まれ、今年も遠方から沢山のペルーの方がいらしてくださり、
にぎやかなお祝いの一日となりました。

目次

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《追悼祈念ミサ》

11 月 2 日「死者の日」の前日、1 日「諸聖人」の日に、住吉教会では、オマリー神父の司式で「住吉教会ゆかりの死者のための追悼祈念ミサ」がおこなわれました。
「私達は天国にいる方々と今も一緒にいます。なぜなら天国とは場所ではなく、神様と一緒にいることであるから・・です」というお話に、今はこの世を去った家族・親戚・友人を、信仰のうちに身近に感じつつ偲びました。

2015 年 11 月 2 日（死者の日）
第 1 朗読　知恵の書　3 章 1～6、9 節

神に従う人の魂は神の手で守られ、
もはやいかなる責め苦も受けることはない。
愚か者たちの目には彼らは死んだ者と映り、
この世からの旅立ちは災い、
自分たちからの離別は破滅に見えた。
ところが彼らは平和のうちにいる。
人間の目には懲らしめを受けたように見えても、
不滅への大いなる希望が彼らにはある。
わずかな試練を受けた後、豊かな恵みを得る。神が彼らを試し、御自分にふさわしい者と判断されたからである。
るつぼの中の金のように神は彼らをえり分け、焼き尽くすいけにえの献げ物として受け入れられた。

主に依り頼む人は真理を悟り、
信じる人は主の愛のうちに主と共に生きる。
主に清められた人々には恵みと憐れみがあり、
主に選ばれた人は主の訪れを受けるからである。

ミサの後のお茶会

目次

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《　2015 年バザーをふり返って　》

11 月 8 日

皆さま　本当にありがとうございました！！

前準備から当日まで多くの方のご奉仕によって、無事終わったことに心より感謝いたします。雨には降られましたが、多くの方が来て下さり 御一緒に楽しい時間を過ごせたことは大きな喜びです。快くお教室を貸して下さった幼稚園の先生方にもお礼申し上げます。

みんなで集い、楽しいバザーではありましたが、各コーナーの人員確保が難しく、担当のお仕事だけで精一杯でした。以前の幼稚園との合同バザーのような交流や震災後築いた地域との交わりも薄くなり、バザー全体が縮小しつつある現状です。
恒例の教会内行事だからとして行うのではなく、神様が下さった時間を内外の多くの方々と共に喜び 分かち合うものになればと良いと思います。

皆様からのお声を聞かせていただき、再検討していきたいと思います。
皆様の率直なご意見・感想をお待ちしています！
最後になりましたが、いつも共に歩み導いて下さる主に深く感謝いたします。

Y.N.

笑顔で焼きそば💜

おぜんざい、いかが？

絵本、可愛いね

手作りケーキ

おでんにタイカレー

住吉名物　ペルー料理

巻きずしです

焼き鳥、焼けたかな？

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

雑貨にリサイクル衣料、真剣に品定め？

恒例のインド雑貨

子供たちも一生懸命

おいしいお料理にお話も弾みます

みなさん、
今年もお疲れさまでした！！

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

《　七五三の祝福　》

11 月 15 日
司式：コンスルタ神父

今年もミサの中で２人のお子さんが神父様から七五三の祝福を受けました。
神父様から祝福をいただいたのち、おメダイと千歳飴をいただき笑顔いっぱいでした。
子供たちの可愛い感謝の祈りを通して、神様の大きなお恵みがこの子供たちをはじめ、
全世界のすべての子供たちのうえにありますように。

マリア　S.S. ちゃん
　　R.H. ちゃん

♪おめでとうございます♪

目次

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《図書コーナー》

シスター　渡辺　和子（ノートルダム清心学園理事長）の著作

昨今またシスター渡辺和子の著作が注目されています。先日のテレビ出演の折にも、海千山千のタレントの人たちに交じっても優しい微笑みをたやすことなく、しかも凛とした佇まいと発言に人々は心を打たれました。シスターの言葉はいつの世にも人の心をうち、心の琴線にふれる言葉に満ちあふれています。

「置かれた場所で咲きなさい」（２０１２年　幻冬舎）
シスターの代名詞になったような言葉です。どのページを開いても、今の自分を反省し、次のステップへと踏み出す勇気とヒントが与えられます。
「はじめに」の最初にシスターは「修道者であっても、キレそうになる日もあれば、眠れない夜もあります。」と書いておられます。
私たちと同じ一人の人間として、苦しんだり、悩んだりする日々の中で、神様へのゆるぎない信仰に裏付けられた生きざまに深い共感を覚えます。

シスター渡辺和子は１９２７年生まれで今年は８８歳になられます。
９歳の時に「２・２６事件」で父上の死に直面したことが、現在までのシスターの人間として、修道者としての姿勢に影響していることは否めないでしょう。

「渡辺和子著作集　Ⅱ　Ⅲ」（１９８８年・山陽新聞社）
27 年も前に出版された著作集で、それよりもずっと以前のシスターの講演や寄稿文を集めた本にもかかわらず、時を超えて現在にも通じる言葉がたくさんあります。

その中で「聖と俗の間にあって」のなかにある一文がとても心に残りました。
「一人の人間が修道者になった途端にまったく別人になるのではなく、立派な司祭、修道者になるということは、立派な人間になる修業を別にしては決してありえないということもわかりました」。
修道者でありながら俗人である我々にも受け入れられ、その中に溶け込んで生活者としての立場から神への愛を説くシスターの原点を見つけた思いです。
司祭や修道者の立場を一般の人たちに正しく理解されることの難しさを説いた上で、「人の心が励まされ、慰められるのは生来の陽気さ、明るさ、ではなくて、ちょうど、あのいつ果てるともわからないトンネルをようやく汽車が出たときの、あの明るさ、「暗さを知った」明るさによってなのです。そして、その明るさは、苦しさ、淋しさの「おり」を飲み干した人のみがもつものなのです。」（１９８１・１２）
「面倒だからしよう」:「幸せはあなたの心が決める」:「愛と励ましの言葉 366 日」や、その他沢山のシスターの著作の中からどれか一つでも時間を割いて読まれたら、きっとその時間は倍の幸せな時になって戻ってくると思います。

(J.Y.)

目次

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《典礼チームからお知らせ》

この数か月の間に　ミサの中でちょっと様子が変わったのでは？と思っていらっしゃる方がおありだと思います。

☆ 先唱者の「立ちましょう」「座りましょう」の案内なしにミサが進みます。先唱者が神父様の動作にしたがって、黙って皆さんをリードするようになりました。

☆ 聖書朗読の間に捧げられる答唱詩編は、答唱詩編唱者が今までオルガンの横で詩編を歌っていましたが、詩編は聖書の言葉なので祭壇の朗読台で歌うのが正しいとのご指摘を受け、11 月 29 日の C 年待降節第 1 主日から変更しました。

そして、11 月 29 日から新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所が実施されています。私達信徒に関係のあることを以下に記します。

動作・姿勢：立つことと座ることが基本

沈黙：ミサ中のみならず始まる前後の沈黙。教会堂、香部屋、でも。

オルガンや他の楽器の使用：待降節には主の降誕の喜びを先取りしないよう節度を持って使う。四旬節には（第４主日と祝日を除く）歌を支えるためにだけ使う。

ことばの典礼における沈黙：朗読の後、説教のあとにふさわしい沈黙を。
（答唱詩編とアレルヤが始まる前に必ず沈黙のひとときをとる）
アレルヤ唱：会衆はアレルヤだけを歌う。住吉教会では唱句は答唱詩編唱者が歌います。
福音朗読：「〇〇による福音」で額、口、胸に十字架のしるしをする。
共同祈願：意向は朗読台もしくはふさわしい場所から。先唱者など一人で。

上記の指針や手引き等は、カトリック中央協議会のホームページからダウンロードが可能です。「毎日のミサ」11 月号巻末にも記事が掲載されていますのでご覧ください。

目次

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

《 教 会 日 誌 》

2015年8月22日	（土）	Come & See Ⅱ （ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ神父と共に洗礼の恵みを味わう会）
9月 5日	（土）	教会学校始業式
9月19日	（土）	Come & See Ⅲ
10月25日	（日）	セニョール・デ・ロス・ミラグロス
11月 1日	（日）	住吉教会ゆかりの死者のための追悼祈念ミサ
11月 8日	（日）	住吉教会バザー
11月15日	（日）	七五三の祝福
11月29日	（日）	待降節黙想会
12月19日	（土）	教会学校クリスマス会、終業式
12月24日	（木）	主の降誕　夜半のミサ
12月25日	（金）	主の降誕　日中のミサ
12月26日	（土）	Come & See Ⅳ
12月27日	（日）	聖家族の祝日　家庭の聖年
2016年 1月1日	（金）	新年ミサ　神の母 聖マリア

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次

《 編 集 後 記 》

主イエス・キリストの御降誕おめでとうございます

✝ 主の平和

阪神淡路大震災から20回目のクリスマスを迎えます。
あの時主人は2ケ月の入院・手術の後で無事退院しておりましたので24日のミサにも与れました。入院中は主日のミサにも与らず、大阪の病院に通っておりましたので敷居の高い思いでした。11月に聖歌隊のお手伝いを頼まれ、何とか教会に戻れたのを思い出されます。
クリスマスには誰にでも、世界中の子供達にも、特に主なる神様からイエス・キリストを通して豊かなお恵みがそそがれています。
希望をもって主の道に続くよう祈ります。アーメン　　I

不 思 議　　八木 重吉

心が美しくなると　そこいらが　明るくかるげになってくる
どんな不思議がうまれても　おどろかないとおもえてくる
はやく　不思議がうまれればいいなあとおもえてくる

待降節の間、ろうそくが一本灯る度「わがまま・きまま」をちょこっとずつ引っ込めて、わくわくしながら今年も又新しく生れて私達の心にきてくださる幼子を待ちわびています。

T.

教会案内

ミサ

主日ミサ	日本語	日曜日	9:30
	スペイン語	第１・第３土曜日	19:00
週日ミサ		火・金曜日	9:30

講座

信仰講座（Fr. 傘木）	Fr. 傘木担当日曜日	10:45
信仰の分かち合い	第２・第４日曜日	11:00
聖書の集い	Fr. 傘木ミサ担当金曜日	10:15
（聖書の集いについて日程は電話でお問合せ下さい）		
Come and See(Fr. ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ)	第４土曜日	15:00
教会学校	第１・第３土曜日14:00-16:00（小学校1年生～6年生）	
評議会	第３日曜日	11:00
野宿者支援炊出し	第１土曜日（住吉教会集合）	9:30

「すみよし」第197号

発行日	2015年12月24日
発行責任者	ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ神父/ｺﾝｽﾙﾀ神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380

http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp

copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church. All rights reserved.

目次